前回の課題文章につけられた吹き出しコメントを読んだ。→はい　いいえ　未返却　読めない\*

＊スマートフォンやタブレットでは、吹き出しコメントが表示されない場合があります。その場合はパソコンで確認してください。

前回の模範文章を読んだ。→はい　いいえ

（当てはまる回答だけを残してください。評価には含めません。指導の参考にします。）

【第３回】

悲しみは数値化できる

1A193008

アンダーランド　ジェイク

　悲しみは数値化できる。数値化とは、ある対象を数量になおして表現することである。具体的には、数値化する対象を比較し、順位をつけ、それぞれの順位に対応した数量を振り当てることが数値化である。高さや重さのように、客観的に観察できる対象は数値化しやすい。それは、客観的に観察できる対象は比較が容易だからである。対して、悲しみのように、人それぞれ感じ方が違う感情は比較して順位づけすることが困難である。だが、それは異なる人間の感情を比較して順位づけしようとするからである。対象を一人の人間に絞り、その一人が持つ感情を比較することは可能である。例えば、経済学には効用という概念がある。効用とは、消費者が財を消費することにより得られる満足を金額という数量で表したものである。この時、消費者が得る満足は、消費者がそれまでに経験した他の満足と比較され、順位をつけられ、その順位に対応して数量を振りあてられる。つまり、満足を数値化したものが効用である。同様にして、悲しみも数値化できるはずである。

作業１　語句が一貫して使われているか確かめましょう。 同じ意味を伝えようとしているのに、異なる語句を使っていませんか。語句がぶれているだけならば、語句を統一しましょう。

作業２　他の語句に置き換えられる「の」は、もうありませんか。点検しましょう。

コメント欄

今回工夫した点は、高さや重さという二つの似たような概念（いずれも物質の性質を表す）を並立させ、さらに効用という経済学用語の意味を説明しました。

今回の課題で不十分な点は、限られた字数の中で効率的にわかりやすい説明ができたかどうか不安であることと、客観的という言葉を使ってしまったことです。

評価のポイントと評価点　　　　　　　　　　　　　　　　　指導員（　　　　　　　）

〔　12 点中　 　　　点〕

＋ボーナス点〔　2点中　　　　　点〕